

平成19年4月25日

第28号

素流協 News

平成19年4月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6 電話 019 (652) 7227 / FAX 019 (654) 8533

素流協 平成十九年度にあたって

平成十九年度は、四月早々に県知事や県議会議員の選挙により、あわただしく騒々しい幕開けとなりましたが、何十年ぶりの暖冬となった今年の冬も、春先になってからの降雪や低温があり、結局、自然界は辻褃を合わせるものだと痛感しております。

まずもって、当協同組合の十八年度における総取扱量が十三万八千立方メートルとなり、当初の事業計画量を達成しましたことをご報告致します。

心から、組合員と関係者の皆様のご努力とご協力に対しまして、感謝申し上げます。

さて、近年、森林・林業が何かと話題に上る機会が多くなってきており、去る四月十三日夕方には、NHKのクローズアップ東北で「林業に何が起きているのか」、更に四月十九日夕方のクローズアップ現代で「生かせるか？森林復活の好機」がテレビ放送されました。東北や全国の森林、木材は社会

の追い風を受けて動き始めたが、収益を山元まで還元して山林を維持管理していかねければ、将来の林業は成り立たなくなると主張しております。

岩手県の森林は、先輩の方々が汗して造成した人工林が着実に充実してきており、年間二百立方メートルもの素材を供給できる能力を持つてきていると思われまます。一方、近年の針葉樹材の生産量は六十万立方メートル強にとどまっております。

材価や需要の低迷など、根本的な理由もあげられますが、生産性の向上や流通の効率化など生産サイドでの課題もあげられます。平成十九年度にあたり、当素材流通協同組合として、次の事柄に取組んで参りたいと考えております。

①生産性の向上
機械装備による生産性向上をすすめるため、岩手県及び林野庁に対して要請していた高性能林業機

械導入の補助事業が採択されました。

導入する機械を効率的に活用し、生産性を上げる仕組みづくりを行い、組合員の生産性向上を支援します。

②定期的計画出荷量の確保
組合員の増加や集荷地域の拡大によって、出荷量の季節的変動は大分緩和されてきておりますが、素材生産が自然の中での作業であり、必ず天候等の影響を受けることから、季節的変動を完全に無くすることはできません。

その対策のひとつとして、中間的集荷場の設置についての検討を進めます。

③運送体制のシステム化
素材輸送における運搬車両の確保は極めて重要であります。

そのためには素材運搬業者のネットワーク化が必要であり、その構築へむけた取組みを行います。

④新たな供給先の開拓
現在、素材の出荷先は、大部分が合板工場二社であります。今後、高性能林業機械等の導入による生産量の増大に伴って、合板用に向かない材も増えることが見込

まれます。
それらの仕向け先として地元
製材工場等への供給について検討
します。

⑤情報共有と技術の向上

当組合及び組合員の活動を活発
に展開するには、関係者間での各
種情報の共有が重要であると考え
ます。

その手段の一つである、「一素流

平成18年度の年間取扱実績

【総取扱量】

平成18年度（H18年4月～H19年3月）の取扱量は138,170立方メートルと計画取扱量（134,300立方メートル）の102.9%となりました。また、昨年度の取扱量の1.3倍となっております。
・出荷先は、ホクヨープライウッド㈱、北日本プライウッド㈱の2社（合板用素材）が98%の比率となっております。
・製材所や航丸太加工の地元工場への出荷は、昨年度より材種で約2,500立方メートル、比率で1.5%増えました。

【合板用素材】

・次の図表のとおりです。
・組合員からの出荷が85%、国有林材システム販売からの出荷が15%となっております。
・樹種別では、スギ62%、カラマツ20%、アカマツ18%となっております、昨年度と比較す

平成18年度 合板用丸太取扱実績 (単位：m³)

出荷元	樹種	農級	H18年4月		H18年5月		H18年6月		H18年7月		H18年8月		H18年9月		H18年10月								
			ホクヨー	北日本	計	ホクヨー	北日本	計	ホクヨー	北日本	計	ホクヨー	北日本	計	ホクヨー	北日本	計						
スギ	中	計	2103	1276	3378	1621	1586	3167	1842	2089	3931	1771	1464	3236	1097	1424	2521	1659	1617	3275	1247	1101	2348
		小計	1934	124	2118	1389	330	1719	2831	417	3248	1503	422	1925	1550	390	1939	1483	223	1707	1208	537	1746
		大	1532	333	1885	879	359	1238	1039	241	1280	1135	108	1304	751	73	824	919	60	979	1070	247	1317
		小	155	74	229	49	147	195	140	34	174	288	7	275	129	3	132	30	17	48	97	41	138
		小計	1687	427	2114	928	505	1433	1179	275	1454	1464	116	1579	879	76	955	949	78	1027	1167	288	1465
		大	7256	3035	10291	5342	3183	8525	7337	4521	11659	6607	3161	9768	4603	3076	7579	4954	3196	8150	4916	2951	7767
		小	627	339	966	334	158	492	557	433	990	654	228	882	1613	0	1613	1432	531	1963	1894	505	2399
		大	213	18	231	269	0	269	101	18	119	48	12	60	233	0	253	122	31	153	223	0	223
		小	82	84	84	0	78	78	0	0	0	0	0	0	81	0	81	26	0	26	133	7	140
		計	842	439	1281	603	235	838	658	451	1109	702	240	942	1945	0	1945	1580	562	2142	2249	512	2761
合	8098	3474	11572	5944	3419	9363	7996	4772	12767	7309	3401	10710	6549	3076	9625	6534	3758	10292	7065	3462	10528		

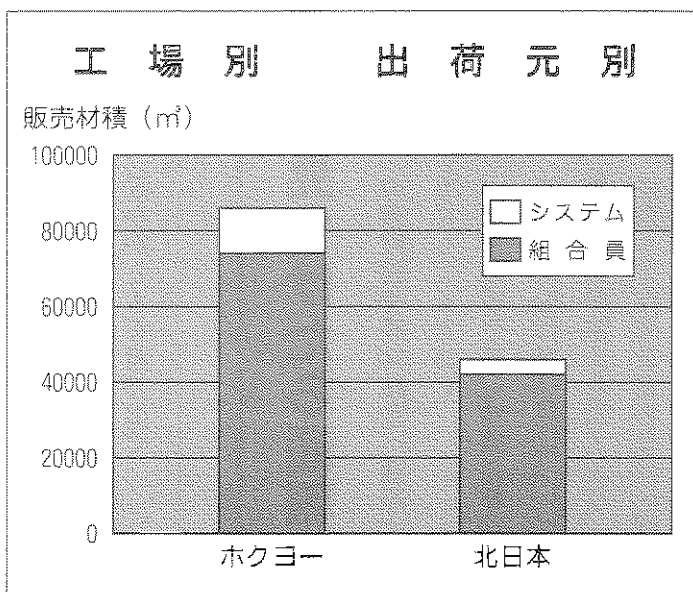
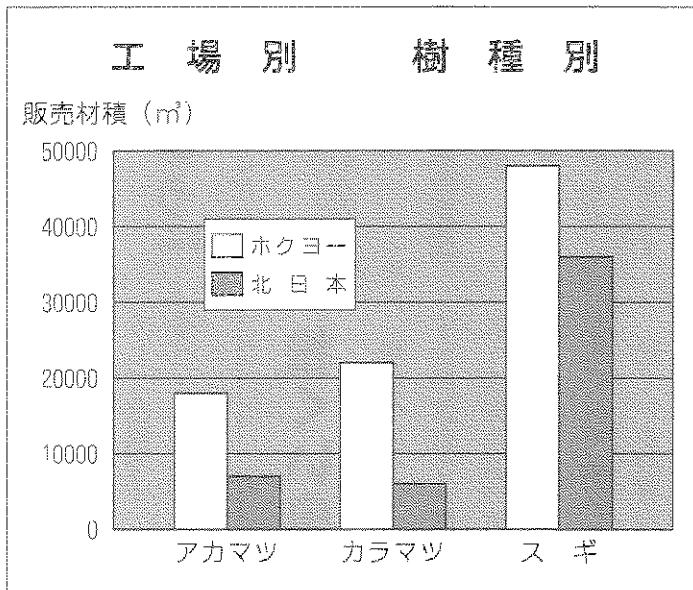
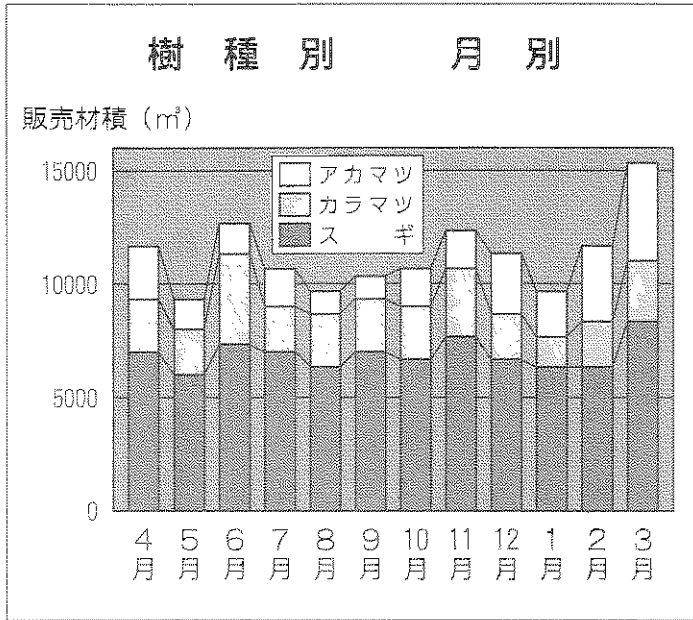
協ニュース」の定期発刊に努めると
ともに、出荷材の規格統一や労働
安全のための研修会を実施します。
以上の取組事項の詳細につきましては、
五月十五日に開催する通
常総会において、提案・説明し、
審議頂くこととしております。
組合員および関係者の皆様の一
層の御協力をお願い致し
ます。

るとスギの比率が5%ほど減少し、アカマツの比率が5%ほど増大しています。
・月別出荷量は、6月、11月、3月を除いて、毎月9,500～11,500立方メートルの出荷量となっております。
・6月と11月は12,500立方メートル強、3月は15,250立方メートルと多くなっております。

・樹種別出荷量を月別に見ると、スギやカラマツでは、一定の傾向は見られませんが、アカマツにおいて、冬場に出荷量が増大し、翌年度はその出荷量を維持している傾向があります。

以上のような取扱量となりましたのも、組合員の皆様、合板工場や製材工場、森林管理署を初めとする関係機関・団体の皆様のご尽力とご協力による賜物と思っております。心よりお礼申し上げます。

なお、19年度は165立方メートルの目標取扱量を計画しておりますので、一層のご尽力とご協力をお願い致します。



出荷元	樹種	長径	H18年11月		H18年12月		H19年1月		H19年2月		H19年3月		計							
			ホクヨー	北日本	ホクヨー	北日本	ホクヨー	北日本	ホクヨー	北日本	ホクヨー	北日本								
組合員	スギ	2.0	1050	1751	2801	1542	1281	2823	1710	1360	3069	1298	1697	2002	1920	3922	15218	15704	30922	
		2.1	349	114	463	266	139	405	19	0	19	246	206	451	302	188	490	1713	1170	2883
		4.0	867	163	1030	1142	709	1850	1262	724	1985	1080	1013	2092	1576	983	2560	14817	11784	26601
		小計	2266	2628	4894	2950	2129	5018	2991	2083	5074	2624	2915	5539	3880	3091	35472	31501	66972	
		2.0	1184	750	1933	929	527	1456	986	216	1101	1357	234	1591	1700	182	1882	14273	3664	18137
		2.1	87	0	87	173	0	173	121	0	121	0	88	0	88	404	0	404	1683	0
	4.0	3	0	3	21	0	21	24	22	0	22	230	129	360	271	47	318	675	271	846
	小計	1276	753	2029	1122	530	1653	1028	216	1244	1675	364	2039	2975	229	2604	19375	4595	23970	
	2.0	1175	383	1558	1435	823	2259	1111	593	1704	1341	1046	2886	3172	612	3784	13709	4186	17895	
	4.0	41	149	190	190	164	354	65	189	254	131	117	247	259	113	372	1554	1055	2609	
	小計	1216	532	1747	1625	988	2613	1176	782	1958	1972	1162	3133	3432	725	4157	17674	5953	23627	
	2.0	2835	457	3292	8670	5697	3646	9343	5195	3081	8275	6271	4440	10711	9686	4045	13732	72521	42049	114569
カラマツ	2.0	445	42	488	264	0	264	211	7	218	208	0	208	100	100	2457	12882	4566	17248	
アカマツ	2.0	128	54	182	37	22	59	7	4	11	9	70	79	21	130	151	444	128	2585	
小計	3208	552	3761	1571	521	2092	760	601	1361	619	353	972	79	21	1517	1583	5140	891	20723	
システム販売	計	7965	4466	12431	7268	4167	11435	5955	3681	9637	6890	4793	11683	10530	4720	15249	88103	47189	135292	

(注) 4月、5月には長径1.9mの規格があったが、以降は2.0mに統一されたので、4~5月のものは長径2.0mに含めて表示している。
また、径数はすべて14cm上である。

林材業ゼロ災害推進中央協議会林業部会 安全作業徹底キャンペーン

「明日も元気に働くために 作業の安全を心がけよう」

平成十八年における林業での死亡災害は、全国五五件の内岩手県で四件も発生しています。

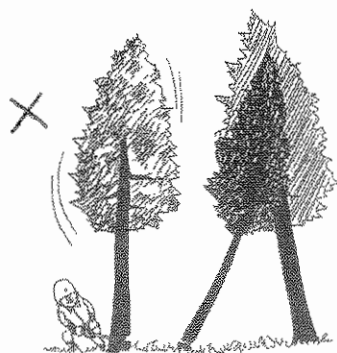
伐採作業中での事故が多く、その中でもかかり木処理に伴う事故が多くなっています。

かかり木の処理をするときは、チルホールなどのけん引機を使って、安全にしかも確実にを行います。

胸高直径二〇センチメートル未満程度の小径木では、木回しや棒などを使って外すこともできます。

かかり木は早期に処理するようにし、かかり木にしたまま、その場を離れたときはあらかじめ打合

投げ倒し



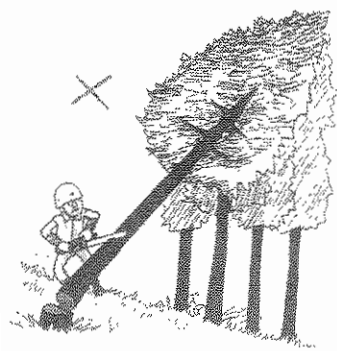
せておいた標識で標示をしておきます。

次のような方法による処理は決して行ってはいけません。

「やってはいけないかかり木の処理」

- ① かかられている木の伐倒
 - ② 投げ倒し（浴びせ倒し）
- 隣接の立木を伐倒してかかり木に当て、その衝撃でかかり木を外す方法ですが、伐倒木が予期しない方向に跳ねたり、また、二重のかかり木となって、更に処理が困難となり、危険が増します。
- ③ 元玉切り
- かかり木の元玉を造材も兼ねて切

元玉切り



松くい虫被害木を見つけたら通報を

り離す方法で、切り離れたときに、かかり木が落下したり、滑落したりして危険です。

④ かかられている木の枝切り

かかられている木に登り、枝を切つて外す方法です。

⑤ かかり木を肩で担ぐ

現在の松くい虫被害は、図に示す大船渡市、一関市、奥州市江刺区、遠野市、宮守町、紫波町、北上市、金ヶ崎町、奥州市胆沢区以南の市町村で発生しております。

の市町村や森林組合へ通報するようになしてください。

「早期発見」「早期駆除」です。

被害地域や周辺地域におけるアカマツ林の伐採作業については、

山中での被害木は人の目につきにくい

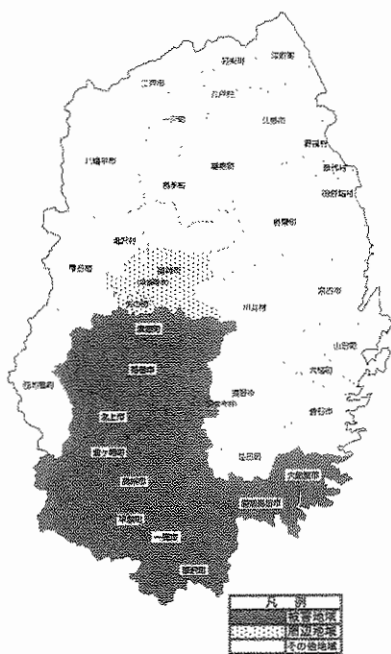
に則って作業を進めなければなりません。

なる危険性があります。

無被害地域のアカマツ林ではそのような作業規制がありませんので、適時適作業を実施するように

山地にお

いて、葉が褐色く赤色に変化したり緑色味の薄くなっているアカマツを見つけたら、地元



【松くい虫対策としてのアカマツ伐採実施指針付属図】

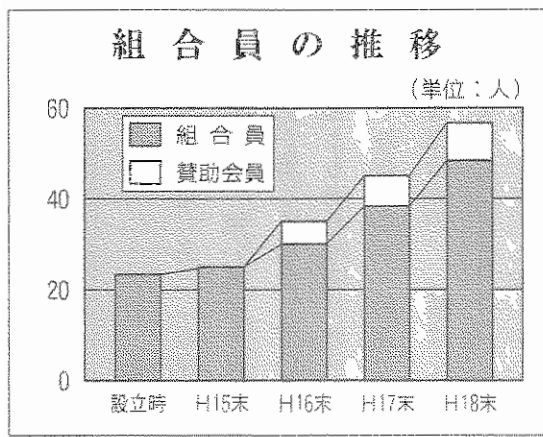
してください。
アカマツの夏季伐採は、材が青変するので製材品として利用する場合には避けられてきましたが、

合板用として利用する場合には、多少青変していても利用が可能ですので、適宜伐採して素材を生産するようにしてください。

新規会員紹介と組合員の推移

前回紹介（H18・9・25 第24号）以降次の4名の方が新たに素流協の会員となりましたのでお知らせ致します。

- 平成15年4月に24名の組合員でスタートした当素流協の組合員数は平成18年度末で48名となり、設立時の丁度2倍の組合員数となっております。
- このほか、9名の賛助会員がおります。
- 新規会員**
- 一、住所 奥州市江刺区
 会社名 朝倉農林
 代表 朝倉 富治
 入会日 平成19年1月12日
- 二、住所 岩手町
 会社名 山中林業



- 代表 山中 義一
 入会日 平成19年2月19日
- 三、住所 洋野町
 会社名 榎丸大県北農林
 代表 大粒来 仁孝
 入会日 平成19年3月12日
- 四、住所 普代村
 会社名 中村林業
 代表 中村 福吉
 入会日 平成19年3月19日

合法材証明認定事業者

平成18年9月27日に、会員43事業体を合法材証明の事業者認定をして、本誌25号で公表しているところですが、その後、6事業体を当岩手県素材流通協同組合が認定しておりますので、ここでお知らせします。

平成18年度 合法材証明認定事業者 (その2)

認定 No.	認定事業者	住所
素流協-017	関口義雄	盛岡市玉山区
素流協-028	佐藤熊雄	盛岡市玉山区
素流協-044	クチキ木材商亭	盛岡市
素流協-045	朝倉農林	奥州市江刺区
素流協-048	中村林業	普代村
素流協-211	太田林業有限公司	青森県

「お詫び」

編集人の業務多忙と事故遭遇のため、第26・27号（H18・12・25）発刊以降心ならずも「素流協ニュース」を再度休刊いたしてしまいました。

昨年度、健康保持に十分留意して、本「ニュース」の編集発行に努めるとお約束しながら、またも組合員及び関係者の皆様のご期待を裏切ってしまった。

衷心よりお詫び申し上げます。

おかげさまで怪我も回復し、業務に復帰することができました。

加えて、今年度は事務局も強化されましたので、健康や事故に十分に留意し、素流協ニュースの内容充実に努めてまいり所存であります。

「素流協ニュース」につきましては、これまで同様にご愛読賜りますとともに紙面についてのご意見をいただければ幸いです。

重ねて「素流協ニュース」休刊についてのお詫びを申し上げますとともに再刊のお知らせをさせていただきます。

通常総会のご案内

次のとおり開催しますので、ご出席下さるようご案内致します。

日時：平成19年5月15日（火）

15時00分～

場所：ホテルメトロポリタン

ニューウイング

主な議案：

平成18年度事業実績（案）

平成19年度事業計画（案）

組織体制

職員の人事異動や新規採用により、平成19年度体制が次のようになりました。

よろしくお願致します。

理事長 下山 裕 司

常務理事 高橋 早 弓

営業企画部長

小野寺 義 晃

管理課長 高橋 明 江

(新規採用)

システム管理係長

星 文

事務員 杉澤 裕 子

落穂拾い

今日は、四月二十六日、盛岡地方裁判所の前庭にある「石割桜」

が満開であり、強い風にあおられて花びらが著しく散乱しているのが、なんとも少々風情がありすぎる感じである。

彼の西行法師が、願はくは花

の下にて春死なん そのきさらぎ

の望月の頃」と詠み、その望みど

おりに一一九〇年の旧暦二月十六

日、満月の夜、今を盛りと咲く桜

のもとで、七十三歳の生涯を終え

た、と伝えられている。本人が望

んだとおりに死を迎える、「幸せな

死」のたとえとしてよく取り上げ

られる。

冗談欄

男の浪漫は 女の不満

二、三年前から「団塊の世代」

「団塊の世代」と言われた

が、急にその年齢の人が増えた

わけではない。六十年前から

判っていたことである。

わが国民の就業者のうちの

割にあたる六八〇万人の人が、

この三年以内に定年を迎えるこ

ととなる。

定年前は大黒柱とおだてられ、

あまりにも仕事に熱心であった

ために、定年をむかえて仕事を

取り上げられると何をやってよ

いかわからず、茶柱にも劣ると

いわれかねない。

家に居ると、妻が「あなたが

一番のストレスです。」と亭主在

宅ストレス症候群という日本に

しかない不思議な病気にかかる

らしい。

「それでは」と外へ出て、少年

時代の夢を追うと「よその人が

やる分にはいいけれど、あなた

がやるのは嫌。もっと収入にな

ることをしたらどうなの。」とい

われるらしい。

世の定年男性諸君、一体どう

すればよいのだ。

ユーモア小説作家にして未来小

説家でありかつ発明小説作家であ

る星新一が、著書『進化した猿た

ち』の中で「安らかな死」として

次のようなことを書いています。

「ここでは、死んでからどうな

るかに関して研究することにする。

狂歌のなかに、こんなのがあった。

「食えばへる眠ればさむる世の中

に、ちと珍しく死ぬもなぐさみ」

食事と排泄、睡眠と起床とをくり

かえず人間のマンネリさを鋭くか

らかっている。これは辞世の歌だ

そうだが、死の前にこれだけのこ

とが言えるとは、相当な人物だっ

たに違いない。しかし、上には上

があり、この歌をからかったよう

な狂歌もあった。「死んでからどう

なるものかわからぬに無用心にも

みな死んでく」▽

「天下に名高い、盛岡の石割桜」

の下で、強風の煽られて散り急ぐ

桜花を残念に思いつつ、「幸せな死

「安らかな死」をとりとめもなく

連想したことであった。